

## 人と防災未来センター 平成 22 年度事業評価

評価単位	評定	委員コメント
展示事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来館者と利用者の区別はあるが、利用者数が昨年のインフルエンザという一過性の現象を乗り越えて、各種の催しや呼びかけを通じて、利用者数を旧に復した事は評価出来る。</li> <li>・ 企画展の内容に工夫が見られ、また将来を担う子供達に焦点を当てている事も評価しうる。</li> </ul>
資料収集 ・ 保存事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部からの資料の閲覧が必ずしも活発ではないのではないか。</li> <li>・ すなわち、100%に達した公開資料を活用してもらうための新たな発想と技術開発が今後の課題であろう。</li> </ul>
実践的な防災研究 と若手防災専門家の 育成事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト研究とそれを支える基礎研究のリンクが見られる。</li> <li>・ 研究者の外部での活動も評価出来るものになりつつある。</li> <li>・ 研究の成果の発表に関しては、報告書に研究論文名や著者名が欠落している等の不十分な点が見られる。</li> </ul>
災害対策専門職員の 育成事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 極めてユニークな、意義の高い事業を継続している事は高く評価出来る。</li> <li>・ 現在はトップセミナーと銘打って行われているが、次のレベルの指導的立場、防災問題の責任者等に、拡げる事が望まれる（人的、財政問題が許す範囲で）</li> </ul>
災害対応の 現地支援事業	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハイチの地震に関しての現地調査は所員を派遣して復旧・復興状況を調べてはいるが支援は十分ではない。</li> <li>・ 東日本大震災関係では、発災後直ちに先遣隊の派遣を行い、速やかな対応が行われている。</li> <li>・ しかしながら、3月末までの対応しか評価の対象にはならない事から、詳細な活動報告は記されておらず、4月以降の活動については未詳のままである。</li> <li>・ しかるに委員が高い評価をしているのは、年度の境があいまいなままで評価しており、被災地が望むような支援をしているに違いないという見込み評価である。したがって、次年度の報告書に対する希望的観測評価とした。</li> </ul>
交流ネットワーク 事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体として活発な交流事業が行われている。</li> <li>・ 特に、「災害メモリアル」に関しては次世代に目を向けた事業が行われており評価出来る。</li> <li>・ 一方国際活動に関しては事務局活動に重点が置かれていて、独自の活動が主ではない。こうした活動を進展させて国際的活動のハブとなることを目指して欲しい。</li> </ul>

\* 評価基準（4段階評価）

S : 大変評価できる

A : 評価できる

B : あまり評価できない

F : 評価できない